

幼稚園の保育を終りたるものと  
家庭より直ちに入学したる者と  
小學校

に於ける成績の比較

東京市京橋區  
朝海小學校長 笹野 豊美

幼稚園から来た児童の成績が、普通の家庭から、  
来た児童に比べて、どうであるかと問はれたら、  
誰でも幼稚園から来た児童の方が、成績が良いと  
答へるでせう。それは良いには良いでせうが、幼  
稚園から来たもの、中にも、随分成績の面白から  
ぬものも、往々實見しますから、果して、何位良  
いものかは、斷言するに躊躇するでせう。私も、  
聊か幼稚園の保育の、小學校教育に及ぼす影響が  
何の位であるかは、常に興味を以て、研究して居  
ります。これまで、この關係について、研究の結  
果を、發表したものをみるに、大抵は只だ粗漏の  
結果を、漠然たる評語で、言ひ表はしたまでい、  
統計的に之を比較したものを見ないのは、甚だ遺  
憾です。そこで、今我々の児童につき、統計的に  
兩者を比較して、見るのも無益ではないかと思ひ

ます。しかし、この統計についても、豫め御断り  
して置きたいのは、兩者の員數に非常な違ひのあ  
ることです、そこで、この統計の結果で、直様兩  
者成績の良い悪いを、絶對的完全に判定すること  
は、出来ませんけれども、兩者の員數同數を得る  
ことは、何れの時何れの所でも到底不可能のこと  
かと思ひますから、『中らずといへども遠からず』  
の古諺にもれず、この統計の結果で、幼稚園の保  
育が、小學校教育に及ぼす影響の主要を知るに足  
ると信じます。

第一 幼稚園修了者と手工科成績

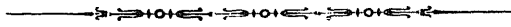
手工が近來加設せられた教課であること、眼前に其  
の成績が提供さるゝので、一般父兄の注意を喚起  
したことは、疑ひなき事實です。即ち、或る父兄  
は、『私の子供は、他の學科は皆な甲か乙かであ  
るのに、手工だけは、何故丙でせうか』又、『私  
の子供は手工が何時も、不成績ですが、之を家庭  
で練習させるには、どうすれば、良いか』又、『私  
の子供は幼稚園から入学したのですから、手工は  
良くあるべき筈なのに、何時も他の學科よりも悪

○手工科成績統計表

くて、乙、丙なるは如何でせうか。』とは父兄から聞かざる、質問です。中でも、第三の質問、即ち幼稚園修了者の手工成績については、理論上から見て、『それは、良い筈ですが……』と、漠然たる

考で、漠然と答ふる外に、統計的の数字を持たざりしには、誠に遺憾に感じました。由つて今左に其の統計を擧げて見ませう。

性 別		學 年		種 別		男		兒 童		女		兒 童	
家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼
45	13	50	10	48	14	50	18	7	25	19	13	19	13
二四・四五	三〇・七七	一八・〇〇	一〇・〇〇	三一・二五	五〇・〇〇	二〇・〇〇	四四・四四		一二・〇〇	一〇・五三	七・六九	一〇・五三	七・六九
11	4	9	1	15	7	10	8	1	3	2	1	2	1
七三・三三	六九・二三	六六・〇〇	九〇・〇〇	六二・五〇	三五・七一	七〇・〇〇	五〇・〇〇	一〇〇・〇〇	七六・〇〇	八一・五四	六一・五四	八九・四七	六一・五四
33	9	33	9	30	5	35	9	7	10	8	1	8	8
二・二二		一六・〇〇		六・二五	一四・二九	一〇・〇〇	五・五六		一二・〇〇	八・九二	六・五〇	一二・〇〇	六・五〇
1		8		3	2	5	1		2	1		2	1
54	4	55	5	45	14	48	20	13	19	17	13	17	13
二四・〇七	五〇・〇〇	二一・八二	二〇・〇〇	一五・五六	四二・八六	一六・六七	三五・〇〇	七・六九	一〇・五三	八・九二	六・五〇	一〇・五三	七・六九
13	2	12		7	6	8	7	1	2	1	1	2	1
七〇・三七	二五・〇〇	六七・二七	六〇・〇〇	六四・四四	五七・一四	七二・九二	六五・〇〇	六一・五四	八九・四七	八一・五四	六一・五四	八九・四七	六一・五四
38	1	37	3	20	8	35	13	8	17	17	8	17	8
五・五六	二五・〇〇	一〇・九一	二〇・〇〇	二〇・〇〇		一〇・四一		三〇・七七					三〇・七七
3	1	6	1	9		5		4					4



六		小計		合計	
家	幼	家	幼	家	幼
40	6	240	86	496	154
二二・五〇		二二・五〇	二六・七四	二〇・七七	
9		54	23	103	
七二・五〇		六九・五八	六六・二八	六九・七六	
10		167	57	346	
		100	57		
		五・〇〇	六・九八	九・四七	
		七・九二	六・九八	四七	
6		19	6	47	
		8			
68		256			
三三・八三		一九・一四			
8		49			
七八・〇五		六九・九二			
1		43			
		32			
二・四四		179			
		一〇・九四			
2		28			
1					

備考 一、種別欄ニ「幼」トアルハ幼稚園修了者、「家」トアルハ家庭ヨリ直接ニ入學シタモノヲテ、二、甲ハ十、九乙ハ八、七六丙ハ五、四點ヲ得タモノヲテ、三、總數ハ學級ニ於ケル總數ヲ委員ハ其一部ヲテ、四、總數、員數ハ算用數字、百分比、學年別ハ日本數字ヲテ、五、手工ノ考査ハ四學年男子除クノ外ハ同一ノ人ニヨリテ探點セラレタルモノヲテ、六、小計ハ男女各別ニ計算シ合計ハ男女合ハセテ計算シタルモノヲテ。

右の統計によつて、次の數件を確むることが出来ます。

- 一、甲の成績を得たもの、丙の成績のものより、乙の成績のものに比べて、遙かに歩合良しきものがある。
- 二、幼稚園から來たものは、丙の成績割合に少なきこと。
- 三、男児の方は、幼稚園修了者と否とにより、成績歩合の差が、少なきに、女児の方はそ

○全學科成績統計表

四、男児は女児に比べて、甲の成績のもの多くて、乙の成績のもの少きこと。

丙の成績のもの少きこと。

第一 幼稚園修了者の全學科の成績  
幼稚園に關係多き手工科では、家庭から直接來たものに比べ、非常に成績の優良なことを確認できた、然らば全學科の成績では如何なる結果を齎すかを次の表で示させよう。

も ど こ と 人 婦

性 別	學 年	一		二		三		四		五		六		小 計		合 計 (男 女)			
		家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼		
男	總 數	25	7	18	50	50	48	10	50	13	45	6	40	240	240	154	495		
		百分比	三六・〇〇	二八・五七	三三・三三	一八・〇〇	五七・一四	二二・九二	一〇・〇〇	一八・〇〇	三〇・七七	二二・二二	三三・三三	二五・〇〇	三四・八八	二二・二五	三九・六一	二二・一八	
		員數	9	2	6	37	8	11	1	9	4	10	2	10	30	51	61	310	
	兒 童	百分比	六〇・〇〇	七一・四三	六六・六七	七四・〇〇	三五・七一	七二・九二	九〇・〇〇	七四・〇〇	六九・二三	七三・三三	五〇・〇〇	七二・五〇	六一・六二	七三・三三	五七・七九	七二・一八	
		員數	15	5	12	37	5	35	9	37	9	33	3	29	53	89	89	358	
		百分比	四・〇〇				七・一五	四・一六		八・〇〇		四・四五	一六・六七	二・五〇	三・四九	五・四二	二・六〇	五・六四	
	童	員數	1				1	2	4		2	1	1	1	3	4	28		
		百分比																	
		員數																	
	女	總 數	19	13	20	48	14	45	5	55	4	54	6	41	68	256			
			百分比	一五・七九	七・六九	六五・〇〇	三七・五〇	五〇・〇〇	三一・一一	四〇・〇〇	二五・六四	五〇・〇〇	一一・一一	六六・六七	一七・〇七	四五・五九	二三・〇五		
			員數	3	1	13	18	7	14	2	13	2	6	4	7	31	59		
		兒 童	百分比	七八・九五	七六・九二	三五・〇〇	五四・一七	五〇・〇〇	六六・六七	六〇・〇〇	六九・〇九	五〇・〇〇	八三・三三	三三・三三	八〇・四九	五二・九四	七一・〇九		
			員數	15	10	7	26	7	30	3	38	2	45	2	33	36	82		
			百分比	五・二六	一五・三九		八・三三		二・二二	七・二七			五・六六		二・四四	一・四七	五・八六		
童		員數	1	2		4		1		4		3		1	9	15			
		百分比																	
		員數																	

備考 一、各學級擔當ヲ異ニスルカラ甲、乙、丙ノ成績考査ノ標準及ビ方法等ニ相異アルヲ免レザルコト 二、其他ハ前表ノ備

考二同シ

右の統計表により左の數件を確むることが出來ます。

- 一、甲の成績の歩合は、幼稚園修了者が家庭より來たるものに比べ、殆んど二倍に近きこと。
- 二、丙の成績の歩合は、幼稚園修了者は家庭より來たるもの、半分にも足らぬこと。
- 三、男兒は、幼稚園修了者と、否により、成績の歩合の差少なきに反し、女兒は其の差

甚だしきこと、手工科に同じ。  
四、手工科の成績に比べて、全學科の成績の方遙かに歩合良きこと。

前の二統計表により、幼稚園修了者は、他の家庭より入學したものに比べて、手工科は勿論全學科の成績も、遙かに良好なることは最早疑ふべからざる事實であります。これは學業の成績だけの比較ですが、尙ほ操行、其他訓練に關する統計は、後日述ぶることにいたします。

◎女には大學教育不必要

△女傑になり損へば墮落

男子が大學に入つて法律なり、醫學なりを研究するのは、何も道樂にやるのではなく、一の職業として學ぶのである。

女子は一般に結婚して家庭を作り、子女を教育するのが天職であつて見れば、高等の専門教育を受けた所で、第一是を應用する機會がない。加之女が生ながら高等教育を受けると直ぐ有頂天になり、奴隷でもないのに解放を叫んで見たりして、普通の所には縁付かない、妾は大學を卒業したから、夫たる人も須らく大學以上の教育ある紳士でなければならぬとか、又は田舎の土臭い男は嫌だとか言つて、強いて東京に於て配偶を求め、男子の方では斯んな虚榮心の強い女を娶ると、生活費も嵩むし。甚だ厄介だから大抵の者は敬遠する。其間に月日はどん／＼経つて、二十歳の女が二十五になり、六になり七になると、生理上からも精神上からも種々の壓迫が加はつて來て、内々煩悶する。斯くして意思の弱い者は遂に墮落し強いは全く男性的に化し、今度社會に立つて男子と競争しやうと逆襲して來る。其中成功した者が所謂女傑と稱せらるるのである。女傑も稀には可い。併して一般の女子は女傑を目的とすべきでない。若し凡ての女が女傑氣取て居たならば、國家は滅亡するであらう。

(澤柳政太郎)